

「セロマジ・プラン二〇一五」

「セロマジ・プラン二〇一五」とは、韓国政府が発表した「第二次低出産・高齢社会基本計画（二〇一一年―二〇一五）」のことを言う。「セロマジ」とは、報告書のタイトル

に付いている修飾句「新しく迎える幸福な出産と老後」という韓国語の冒頭の四文字を使用し、報告書のタイトルにしたものである。執筆者たちの並々ならぬ意欲を感じさせるタイトルでもある。

国連の定義によると、全人口に占める六十五歳以上の人口が七%を突破すると高齢化社会、十四%を突破すると高齢社会、二〇%を突破すると超高齢社会と呼ばれる。日本は一九七〇年には高齢化社会になり、一九九四年には高齢社会に、さらに

の十二年（同二十一年）かかっている。しかし二〇〇〇年に高齢化社会になった韓国は、現在の出生率を前提にすると、高齢社会になるのに十八年、さらに超高齢社会になるのに八年しかかからないことになる。日本を遥かに凌駕するスピードである。

そのため韓国政府は二〇〇六年には「第一次低出産・高齢社会基本計画」をスタートさせ、少子・高齢化のスピードに歯止めをかけるべく努力してきた。しかし目立った効果はなく、合計特殊出生率に至っては〇八年（一・一九）、〇九年（一・一五）と低下している。それだけに、政策立案者の状況認識には厳しいものがある。報告書の中でも「現在わが国は世界的に類例にない急激な低出産・高齢社会への転換を経験中」としてている。

二〇〇六年には超高齢社会になっている。日本は高齢化社会から高齢社会になるのに二十四年（米国は七十三年）、高齢社会から超高齢社会になる

報告書によると、事態が改善されない限り、二〇一七年には韓国の生産年齢人口は減少に転じ、十八年には高齢社会に転じ、十九年には総人口も減少に転じ、五十年には六十五歳以上の老人の比率が三八・二%と、世界最高水準に達するものと見られる。陰鬱な話である。韓国の若者の間での晩婚化、出産意欲の急激な低下は注目される。

超高齢社会になる

（野副伸一 アジア研究所所長）

✿ 研究所だより ✿

五月のセミナー「アジアウォッチャー」について（報告）

5月14日 奥田聡（アジア経済研究所地域研究センター・動向分析研究グループ長）

「展開著しい韓国のFTAと日本へのインパクト」

第三十一回公開講座について（報告）

今年度は『高齢化とアジア』をテーマに、以下のとおり公開講座を開催いたしました。

第一週 6月4日 小峰隆夫

（法政大学 大学院 政策創造研究科教授）
「人口変化と日本・アジアの経済人口オナーナスの観点から」

第二週 6月11日 小林照直（アジア研究所教授）

「中国の社会保障制度改革
―都市・農村一体化の試み―」

第三週 6月18日 大泉啓一郎

（株式会社 日本総合研究所 調査部
環太平洋戦略研究センター 主任研究員）
「東南アジアの『老い』をどう捉えるか」

第四週 6月25日 野福伸一（アジア研究所所長）

「日本より速い韓国の高齢化」

延べ参加人数は、四八一名でした。

ご協力いただいた講師諸氏ならびに、受講者の方々に厚く御礼申し上げます。

